

「反人身取引デー」第2弾

反人身取引デーのイベントの第2弾が、6月10日午後、バンコクの中央駅に当たるフアラムポーン駅で行われました。今回は、広く一般の人びとに人身取引の課題の重要性と取り組みについて知ってもらいたいということで、地方から来る人が多く利用する駅の待合室のホールを会場に行われました。

高い天井を持つ駅ホールの中央に大きな舞台がしつらえられ、前回同様、社会開発人間安全保障省イサラ大臣、副大臣、事務次官、社会開発福祉局長、全国のシェルターの所長など、省の主だった関係者の方々、加えてMDTのメンバー組織でもある警察、労働省、NGO、国際機関などの関係者、さらに駅舎を提供した鉄道局の関係者など、人身取引に取り組んでいる関係機関の方々が多く参加され、挨拶されました。関係者全員が舞台上に上がる場面もあり、私たちJICA専門家も招じられ、舞台上で大臣や関係者たちと並んで記念写真に収まりました。



しやり、タイのこのようなイベントにおけるエンターテインメントの要素の重要性を改めて認識させられました。

今回もブースが設置されましたが、会場のスペースの関



係上、ブースの数は前回より少なく10個で、さらに前回出していなかったNGOなど関係機関のブースが増えたため、今回プロジェクトはBATWCのブースの一角に配布物を置くスペースを頂き、看板を出し、存在感を示すことができました。用意した配布物はすべてなくなり、人びとの関心の高さがうかがえました。

タイではこのように社会開発人間安全保障省を挙げて人身取引に取り組んでいます。私たちのプロジェクトの成功が省にとっても重要だということに改めて身が引き締まる思いでした。日本でも、東京駅や上野駅で人身取引のイベントが行われるようになって欲しいものです。



舞台の華やかさ、賑やかさはホテルで行われた第1弾のイベント以上で、いやでも、駅を利用する人びとの目をひくものでした。人気俳優による司会、バックダンサーを従えての有名な歌手による歌、そしていくつもの若い人たちによる歌やダンスなどなど盛りだくさんでした。大臣たちもこれらの歌や踊りを熱心に見ていらっ